

MACF 礼拝説教要旨

2023年8月13日

「平和祈念礼拝」

詩編 85 編

1 【指揮者によって。コラの子の詩。賛歌。】

2 主よ、あなたは御自分の地をお望みになり
ヤコブの捕われ人を連れ帰ってくださいました。

3 御自分の民の罪を赦し
彼らの咎をすべて覆ってくださいました。

4 怒りをことごとく取り去り
激しい憤りを静められました。

5 わたしたちの救いの神よ
わたしたちのもとにお帰りください。
わたしたちのための苦悩を静めてください。

6 あなたはとこしえにわたしたちを怒り
その怒りを代々に及ぼされるのですか。

7 再びわたしたちに命を得させ
あなたの民があなたによって
喜び祝うようにしてくださらないのですか。

8 主よ、慈しみをわたしたちに示し
わたしたちをお救いください。

9 わたしは神が宣言なさるのを聞きます。
主は平和を宣言されます
御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に
彼らが愚かなふるまいに戻らないように。

10 主を畏れる人に救いは近く
栄光はわたしたちの地にとどまるでしょう。

11 慈しみとまことは出会い
正義と平和は口づけし

12 まことは地から萌えいで
正義は天から注がれます。

13 主は必ず良いものをお与えになり
わたしたちの地は実りをもたらします。

14 正義は御前を行き
主の進まれる道を備えます。

この詩編はその昔、イスラエルの国が滅ぼされバビロンに捕囚となり 50 年。再びイスラエルに戻れるという希望を胸に帰国した人たちを待っていた過酷な現実。異邦人が住み、畑は荒れていて希望を見出しにくい状況の中で書かれたものと理解されています。バビロンからの帰還がなされた紀元前 520 年頃です。

1) 神は私たちの罪を赦し、その怒りを私たちから遠ざけてくださっただからこそ捕囚の地バビロンから喜び勇んで自分の国に戻ってきたのです。しかし現実には厳しかった。相変わらず神が怒っているような、何かすっきりしないような気分が社会全体を覆っていました。

神が赦し、愛してくださっているならもう少し楽な生活ができて良いはずではないのか。この厳しい現実は何だかどうしたのか。

具体的には神殿の再建に着手するのですが、なかなかうまく前に進まなかったのです。神を愛し、その神のための神殿を建築しようとしているのに、ことがうまく運ばないというのは、神様から嫌われているのか、神様が助けようとしておられないのか。彼らの心は不安になります。

そこで、再び彼らは神様に声をあげます。

2) 我らをふたたび生かされないのですか
リバイバルという言葉があります。まさに彼らの叫びはリバイバルの要求です。死んだも同然だったものが生かされ、ふたたび、落ち込んだ時、再起を願うか不貞腐れて神様を呪うか。彼らは冷静に神様の言葉を待ちました。

3) 愚かな振る舞いに戻らないように
人々が愚かな振る舞いに戻らないためにこそ神は「平和」を宣言なさいます。私たちは「平和のために戦争をする」という表現をよく用いますが、そこには矛盾があります。双方の心に平和や平安があったら、戦いは避けるものです。戦わずして和睦し、双方にとって益となる道を探すものです。しかし、どちらかに「不信、憎しみ、所有欲、侵略の心」があったら「愚かな振る舞いが展開される」恐れがあります。

双方が心に平和を保持する努力はとても大切です。

10 主を畏れる人に救いは近く
栄光はわたしたちの地にとどまるでしょう。
11 慈しみとまことは出会い
正義と平和は口づけし
12 まことは地から萌えいで
正義は天から注がれます。

13 主は必ず良いものをお与えになり
わたしたちの地は実りをもたらします。

「優しさ」と「誠実さ」を共有できたらなんと素晴らしいことでしょう。
「互いに自分の取り分や持ち物で納得できる関係」とは
なんと美しいことでしょう。

実は、イエス様の十字架の出来事の中にそれは花開いています。

「神の慈しみ」と「御子イエス・キリストの誠実さ」

「神の正義」と「御子イエス・キリストによる贖いと平和」

とが出会い、口づけするという出来事のなかにこそ、私たち人間に
対する心の一新の奇跡がもたらされるのです。

それを体験した私たちは「まことは地から萌えいで」るような
生き方を希望するようになるのです。

そして、神の望まれる生き方の指針がイエスさまにより、み言葉に
より私たちのところに届くのです。

それは、私たちが愚かな振る舞いに戻らないためです。

平和を求め、平和を作り、人を愛し、人に寄り添って生きることを神様は
私たちに願っておられます。命を守ろうとする生き方です。

1945年8月第二次世界大戦の最中に、広島と長崎に種類の違う2発の
原子爆弾が落とされました。

8月6日に広島に落とされたのは、ウラン原爆。8月9日に長崎に落とされたものは
プルトニウム原爆です。

核兵器が実戦で使用されたのは、世界でもこの2都市だけです。

2発の原爆による死亡者数は、正確にはわかっていないものの、広島・長崎の

2市が作成している「原爆死没者名簿」に記載されている人数は、広島32万8,929名、
長崎18万9,163人の合計51万8,092人。（2021年8月時点）

この数字は、被爆の後遺症で亡くなる方を追加することで、
毎年、その数が増加しています。

これは戦争を終わらせるためという理由があるにしても、人類史上もっとも残酷な
そして愚かな振る舞いだと感じます。

日本の場合、第二次世界大戦で軍の関係者が210万人、そして民間人が100万人
くらい死亡しています。アメリカは軍人が42万人。民間人が1700人。そして中国や
東南アジアの島々の人たちもものすごい数の死者がでています。島々の人たち、その多くは
民間人です。

現在も続いているウクライナの戦争においても犠牲者が多数でています。

2023/07/11 に国連が発表した軍事侵攻以降のウクライナ市民の死者数は 9177 人。
負傷者数は 1 万 5993 人でした。
ロシア軍の死者がおよそ 4 万 7000 人と発表されています。

こんなに人が亡くなって、何をできるのでしょうか。
おそらく「報復」「恨み」「憎しみ」の連鎖のような気がします。

人が意見が違っても平和に様々なことを建設的に実行できるという現実をぶち壊す狂気
それが戦争だと思います。
ここに戻ったり、繰り返してはならないのです。

私たちが創造された神様の思いにしっかり心を留めながら、前に進んでいきましょう。
命と平和を大切にしながら生きていきましょう。
そのためにこそ、イエスさまは十字架の上で苦難を担い、愛を示し
神との平和をもたらしてくださいました。あなたも私も、神様は
イエスさまの命をかけて愛しておられるのです。あなたの存在といのちは
尊いのです。
争いが小さいいざこざから始まるように、平和も小さな関わりから始まります。
愚かな振る舞いに戻らないよう、神様の言葉にしっかり留まり、神様の
心を感じ取りながら生きていきましょう。
平和を祈りましょう。

* * * *

Youtube「礼拝映像」はこちらです

<https://youtu.be/z9KI9byHOdk>

++

お知らせ

来週の日曜日（8月20日）のOCCでの礼拝は
納涼落語礼拝です。お楽しみに。

時間はいつも通り午前10時からです。